

市



立



院



だ



よ



り



2020年 1月号

市立病院は地域の中核病院として、高度急性期・急性期医療、救急医療、小児・周産期医療をはじめとする地域の医療ニーズに応えるべく、医療体制の充実・医療機能の向上等を進めています。

2019年4月、田村茂行医師が新病院長に就任しました。これまででも外科系の副院長としてリーダーシップを発揮して来ましたが、今後は病院長として病院全体の経営・運営について病院職員の先頭に立って様々な取り組みを実行するべく、市立病院が取り組むべき3つの重点項目を掲げられています。

今回は田村病院長に3つの重点項目について具体的にお話しいただくとともに、新しい取り組みについてもお聞きしました。



平成31年4月1日、辞令交付後に訓示を述べられる田村病院長。この中で3つの重点項目を掲げられた。

田村 新病院長へのインタビュー

高度で質の高い医療を提供し、地域の皆様に信頼される病院をめざしてく

市立病院では、平成31年4月に田

村茂行医師が新病院長に就任されました。田村病院長は、就任挨拶の中で

①がん診療のさらなる充実
②救急医療、小児・周産期医療な

③ QOL（生活の質）の維持・向 と政策医療の継続

上をめざす医療の充実

点項目として掲げられました。

今日は、田村病院長に各重点項目についての具体策や、病院長として半年以上が経過する中での感想、今後の課題・目標などについて伺いました。

―― 病院長になられて半年以上が経過しました。就任当初に掲げられた3つの重点項目に対する現在の取り組み状況について色々とお話を聞かせてください。

① がん診療のさらなる充実

大阪府の推薦をいただき厚生労働省から指定されました。
— 平成31年度から、拠点病院の指定要件が厳しくなりましたね。

私自身、食道をはじめとする上部消化管を専門とする外科医ですので、がん診療の充実については最優先課題として取り組んでいます。

厳しくなると同時に、必要な要件を満たせば、新たに「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」として指定されることになります。

市立病院は平成27年4月に、国指定の地域がん診療連携拠点になりましたね。

元々、二次医療圏に1施設が指定

元々、二次医療圏に1施設が指定されており、中河内医療圏では市立東大阪医療センターが指定されていました。

——がん診療の種類と市立病院の
強みについて教えてください。

当院では、平成21年度から大阪府のがん診療拠点病院となっておりましたが、地域医療の質の向上をめざすうえでは、国指定の拠点病院の要件を満たすことが重要だと考え、診療体制の充実や医療機器の整備等に取り組んでおりました。

一 平成19年に佐々木特命総長が
赴任されて以来、市立病院の手術実
績は大きく伸びましたね。

例えば、以前は呼吸器外科の専門医がいなかつたため、当院で「肺がん」と診断しても、手術は他病院に紹介することもありました。佐々木先生が、当院の前に勤務されていた大阪府立成人病センター（現 大阪国際がんセンター）から、肺がんのスーパードクターとして著名な兒玉先生を特命院長として招聘され、5大がん全ての手術対応が提供できる体制を整えられました。

患者さんの身体への侵襲が少なく、術後の入院期間も短くなり、社会復帰も開腹・開胸手術よりも早くなる

場合が多いと言われています。鏡視下手術では、切除部分をカメラで写している画像をテレビモニターで見ながら手術できるので、直視よりも手術部位を精密に確認することができ、安全に手術を施行することができます。

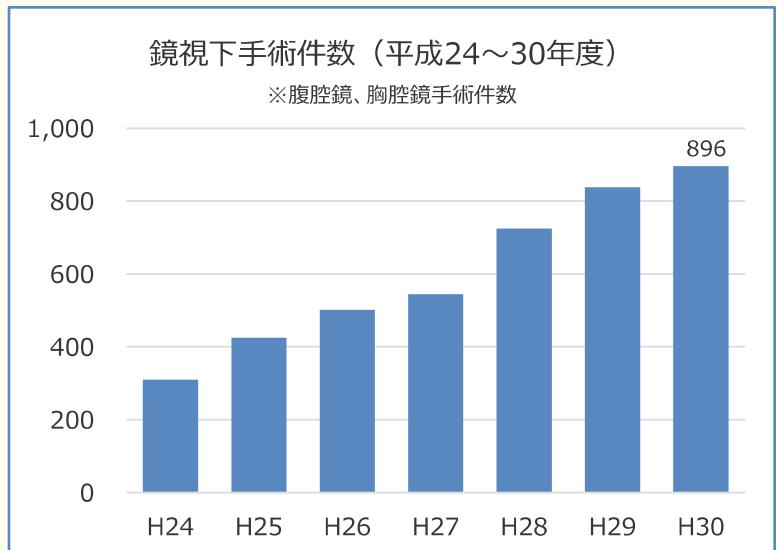
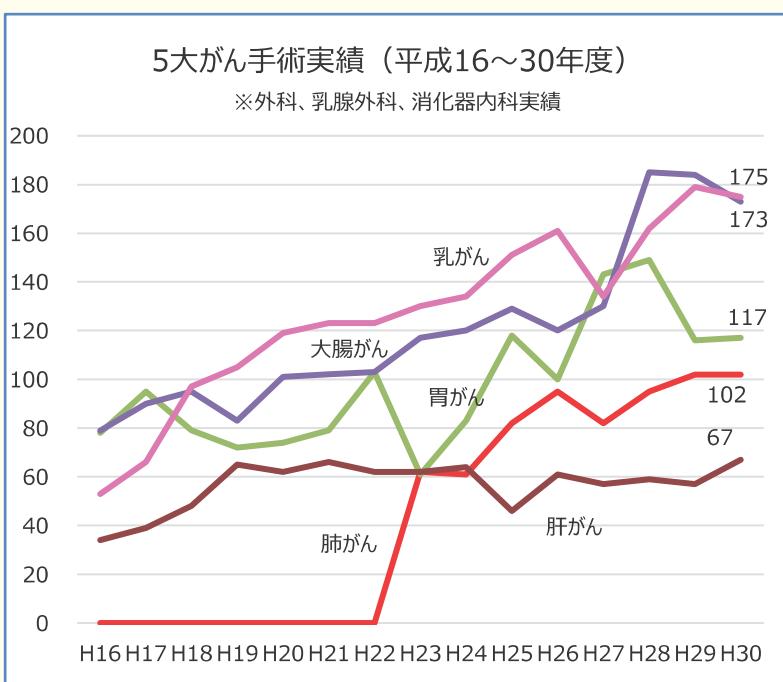
— 5大がん以外の手術も多数の実績がありますね。

がんと同様、全国でも罹患数の多い
がんは当院でも手術実績が多くなつ
ています。

また、私自身は消化器外科医であ
り、その中でも食道がん・胃がんの治
療を多く経験してきて いますので、
かかりつけ医をはじめ、地域の先生
方からも数多くの紹介をいただいて
います。

— 最近では、がんの手術も鏡視下
手術が増えていますね。

1950～60年代で倍以上に増えています。鏡視下で行う手術は、一般的に



のスペシャリストの意見を参考にす
る二二〇種類あります。手術治療

— 患者さんの立場としては、医師に任せておけば良いのですか。

けではなく、抗がん剤による薬物療法や放射線治療、あるいはそれらの組み合わせによる治療など、一つ一つの症例に対しオーダーメイドで治療を考えています。

また、手術を選択する場合でも、がんの種類や大きさ・進行度等によつては、消化器内科医師が内視鏡で手術する方が適切と判断される場合は院内紹介することもあります。

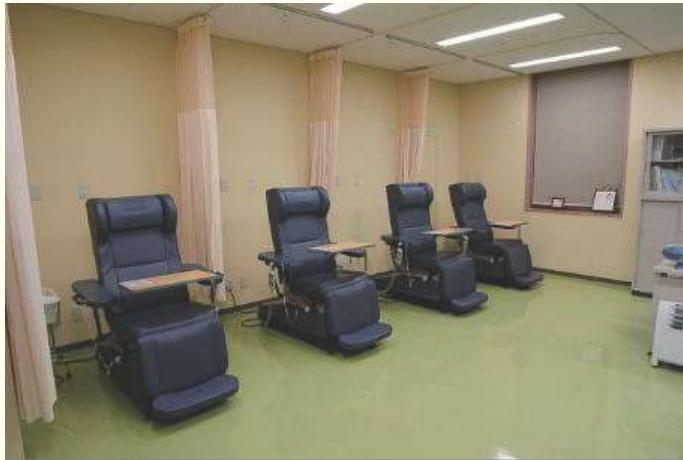
ですので、治療を受けられる場合は、疑問に思うことは遠慮せずにご質問いただき、患者さん自身が受けられる治療についてしっかりと理解いただくことが重要だと考えています。

治療の主人公は患者さんですので、医療側の考え方を丁寧に説明させていただいた上で、患者さんの意向も確認させていただき、最終的な治療方針を決定していきます。

がん薬物療法に用いる薬剤は大きく、「抗がん剤」による「化学療法」・「ホルモン療法」・「分子標的薬」・「免疫療法」に区分されます。また、薬物療法単独で行うケースと、手術や放射線治療と組み合わせて行うケースがあり、がんの種別や進行度等により、適切な薬物療法を選択します。

以前は入院していただいて治療するケースがほとんどでしたが、現在は外来で点滴注射を行う治療が中心

一 次に「がん薬物治療」への取り組みについて教えてください。



以前の通院治療センター。2階外来の奥にあり、リクライニングチェア9台の間隔も十分に取れていなかった。

にならせていました。また、最近では経口で服用いただく薬剤もあります。市立病院では平成27年に通院治療センターを移設されましたね。

平成16年に当院が現在の場所に新築移転してきたときは、まだ外来でのがん薬物療法はそれほど多くなく、一般的の点滴患者さんと一緒に治療を行っていました。

その後、通院治療センターをがん



平成27年に整備した、現在の通院治療センター（4階）。元々、大会議室であった広々としたスペースに、16床のベッドとリクライニングチェアが余裕をもって配置され、快適な治療環境を整えている。

薬物療法の治療室として整備しましたが、外来フロアの奥まつた場所で、スペースの関係で9床しか専用の椅子を設置できませんでした。

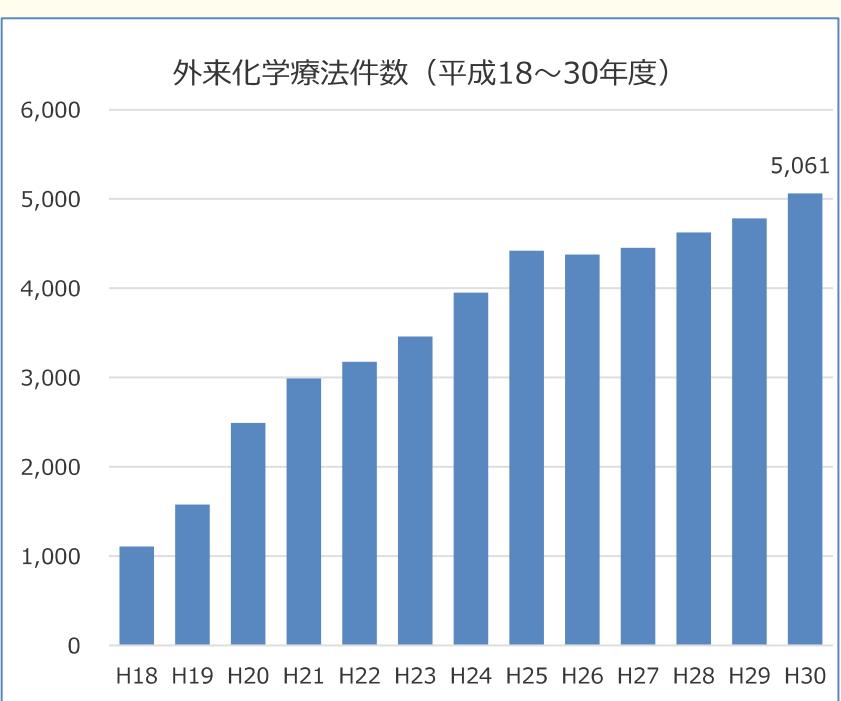
そこで、病院機能の拡充工事を行つた際に、4階の大会議室を通院治療センターに改修し移転しました。それまでの9床から16床に増床するとともに、リクライニングチェアだけでなくベッドも設置し、患者さんの身体状況に合わせた点滴治療を行

えるように改善しました。

一 外来の奥から、窓のある大きな部屋に移設したことで、随分雰囲気も良くなつたと好評ですよね。

今年度からは診療体制も強化されましたね。

がん薬物療法は進化が目覚ましく、次々に新しい薬が開発されています。期待される治療の効果や、副作用のコントロールなど、より専門的な知



識が求められています。

伸ばしていますね。



放射線治療装置（リニアック）

あらゆる高精度放射線治療を短時間で実現可能とするリニアック。強度変調放射線治療（IMRT）、定位放射線治療（ピンポイント照射）などの高精度な放射線治療においても、高線量・短時間の照射で安全で精度の高い治療を実現している。

がんの病変をピンポイントで照射することも可能で、がんの種類によっては、手術治療とほぼ変わらない治療実績を上げています。

緩和ケアの専門家である医師として、4月から沈沢部長、8月からは井谷部長に着任いただいています。従来から緩和ケアセンターとしてチーム医療活動を行っていましたが、診療体制の強化と合わせ、院内組織も再構築・強化していくねらいがあります。

— 緩和ケアセンターではどのような活動をされているのですか。

基本的には「がん」をはじめとする重い病気を抱える患者さんやご家族の心身の苦痛を和らげ、より豊かな人生・生活を送っていただけるようなサポートをしていくためのケアをめざしています。

— 次に2つ目の重点項目である「政策医療」です。救急医療については、かなり活性化している印象があります。

平成30年度に着任された馬場急救療科部長が、積極的な救急搬送の受け入れと、若手医師の教育に取り組んでくれています。

— 救急搬送の受け入れ件数も増加していますね。

② 救急医療・小児・周産期医療などの政策医療の継続

そこで、今年度新たにがん薬物療法の専門家である腫瘍内科の洪部長に来ていただきました。洪部長には通院治療センター長も兼任いただき、診療科だけではなく、多職種による薬物療法のチーム医療の再構築・推進に頑張っていただいています。

— 放射線治療についても、最新の機器の導入後、IMRT（強度変調放射線治療）や定位放射線治療といったレベルの高い治療を中心に実績を

この分野では著名な西山特命院長を大阪府立成人病センター（現 大阪国際がんセンター）から招聘できただのが大きかったですね。

——がん診療の第4の柱といわれて
いる「緩和ケア」についてはどのよう
に取り組まれていますか。

入院中であれば主治医の依頼により、多職種で構成される緩和ケアチームが介入し、身体的・精神的・社会的苦痛等の緩和を図ります。チームでは各患者さんの状態・状況についてカンファレンスを行い、各専門のスタッフによるディスカッションを行っています。

その他にも、緩和ケア外来やリンパ浮腫外来、認定看護師による緩和ケアに関する相談など、様々な取り組みを進めています。

救急診療の現場としては積極的な受け入れをしたいと考えているものの、現在当院は外来から他病院に転送しない場合、必要があります。その場合、必要があれば当院医師が救急車に同乗し、搬送先の医療機関の医師に当院での診断と初期治療内容について申し送りを行うこともあります。

－ 救急といえば、市立病院の特徴として、形成外科の救急対応も挙げられますね。

一般的には「形成外科」と聞くと、「どんな診療をしているの？」と思われる方が多いと思われます。

形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、或いは整容的な不満足に対して、機能回復とともに、QOLの向上をめざす外科系の専門領域といわれています。

－ 具体的な形成外科の救急対応としてはどのような症例が挙げられますか。

機関は大変少なく、当院でも市内だけでなく、かなり広いエリアからの救急要請に対応しています。その結果、症例数が多くなっていると考えています。

－ 切断指の再接着手術では全国でも上位の症例数として大手新聞で紹介されたこともありますね。

－ 続いて、周産期医療の現状と取り組みについて教えてください。

「ものづくりのまち八尾」ということで、八尾市は工場が多く、手指の外傷（切断指など）の救急対応が多く発生します。切断指の再接着手術は急を要するため、形成外科では24時間のオンコール体制をとり、緊急手術に対応しています。

－ 救急といえど、市立病院の特徴として、形成外科の救急対応も挙げられますね。

－ 救急といえど、市立病院の特徴として、形成外科の救急対応も挙げられますね。

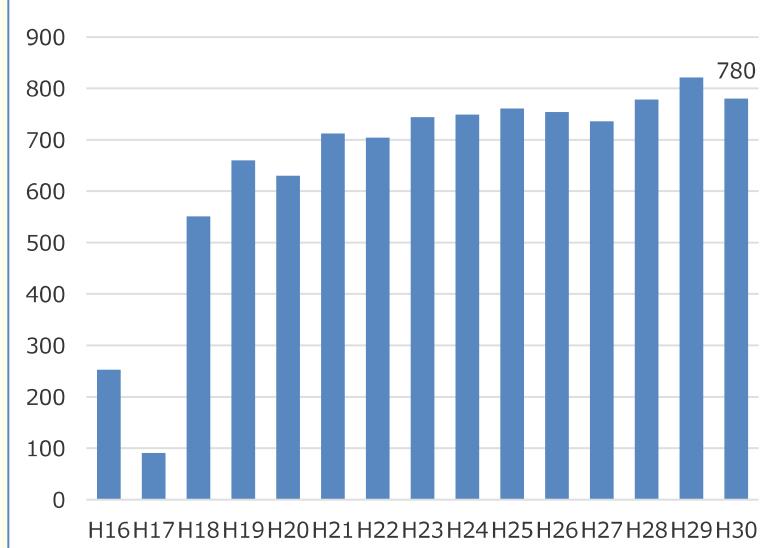


三宅ヨシカズ 形成外科医長
(公開講座での講演風景)

市立病院の形成外科で対応している疾患

- 母斑（ほくろ、あざ）、血管腫（赤あざ）
- 皮膚腫瘍、瘢痕（傷あと）、ケロイド
- 熱傷、顔面骨骨折、顔面外傷、手指外傷、切断指
- 多指症、合指症、副耳、耳前瘻孔、埋没耳、耳垂裂、突出臍
- 眼瞼下垂、内反症（さかまつけ）、巻き爪
- 乳房再建、陥没乳頭
- 難治性潰瘍

分娩件数（平成16～30年度）



当院は「地域周産期母子医療センター」に認定されており、地域の中核病院として、地域の周産期医療施設と連携し、分娩や新生児医療に対応しています。

－ 続いて、周産期医療の現状と取り組みについて教えてください。

－ 小児科については、年々少子化が進んでおり、患者数にも大きく影響しているのではないですか。

少子化と感染症に対するワクチン接種の浸透などにより、小児科の患者数は減少傾向にあります。

しかし、八尾市にとって子育てのしやすい環境の整備は重要課題であり、充実した小児医療の体制整備・維持は政策的な面でも欠かすことができないと考えています。

— 小児医療の体制を維持するためにも、小児科では様々な取り組みをされていますね。

例えば近年増加している食物アレルギーやダニ・スギ花粉、アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患の専門外来や入院治療に積極的に取り組んでいます。特に食物アレルギーをお持ちの小児に対して、1日入院（日帰り入院）で行っている食物経口負荷試験は、年間300件程度対応しています。

また、平成30年度には小児科病棟のうち5床を、小児科以外の入院にも活用できるよう改修工事を行い、小児医療の体制を維持しながら、フレキシブルな運営を行えるような取り組みも行っています。



2階フロアに拡充・移転した糖尿病センター。医師・看護師・管理栄養士等によるチームで診療にあたっている。

③ QOL（生活の質）の維持・向上をめざす医療の充実

— 3点目の重点項目は、田村病院長が新たに打ち出した項目ですね。

佐々木特命総長の病院長時代を「成長期」、星田総長の病院長時代を「成熟期」とするなら、私の代に「衰退期」にならないよう、これまでの病院経営・運営を継承しながらも新しい機軸を打ち出したいと考え、メッセージとして出しました。

— 市立病院というと「急性期医療」

というイメージが強いのですが、具体的にはどのような医療の充実を行っていくのでしょうか。

例えば、当院では糖尿病センターを設置し、医師・看護師・管理栄養士が連携した糖尿病のコントロールを行っています。

糖尿病といえば生活習慣病の代表的な疾患で、多くの場合はかかりつけ医が主治医となり、日常の診療を行っています。

しかし、糖尿病のコントロールが上手くいかずに寛症化することにより、心臓疾患や白内障、腎症を続発する場合があり、その予防は重点施策として、厚労省の医療計画の中でも「5疾病・5事業」の一つに糖尿病が挙げられています。

— 糖尿病性腎症による人工透析患者の増加は、大きな社会問題として報道もされていますね。

人工透析が必要になつたり、失明や壊死による足の切断など、QOLに大きなマイナスとなるような状態を予防するためにも、当院では4名の常勤医

師を中心とする糖尿病センターで、専門的な治療や必要に応じて教育入院を行っています。

これまで糖尿病センターは1階の救急外来に併設し、患者さんや医療者にとって不便な部分がありましたが、重点項目への取り組みの1つとして、令和元年10月に2階の外来フロアに移設・拡充したところです。

— 当院と同等規模で、常勤医師4名体制で糖尿病を診察している急性期病院は少ないかもしれませんね。

QOLといえば認知症についてはどのように対応をされていますか。

当院は認知症の専門の治療機関ではありませんが、入院や手術を契機に認知症を発症されたり、認知症が進行するケースというのは決して珍しくありません。

そこで11月に新たに「認知症ケアチーム」を立ち上げました。認知症看護認定看護師を中心に、医師・看護師・MSW（メディカルソーシャルワーカー）・薬剤師・管理栄養士・理学療法士からなるチームが、入院中の治療が適切に行えるよう、主治医からの依頼に基づき、介入・ケアを行っています。

| 認知症により入院治療が計画通りに進まないことで、患者さんの社会復帰が遅れることがないよう、各専門スタッフが連携してサポートしていくということですね。

この分野はまだまだ分からぬことも多い一方、入院患者の高齢化は急性期病院といえども避けられない課題と考えています。今後も新しい情報を積極的に取り入れ、対応の充実を図りたいと思います。

④ 病院長としての新たな取り組み

| 病院長に就任以降、新しい取り組みも積極的に進められていますね。

外科系の診療科の問題として、「予定手術の待機」があります。外来診療の中で手術が必要と診断しても、手術予定枠に余裕がなく、スムーズに手術予定を入れることができないというジレンマがあり、何とか解消したいと考えていました。

そこで、中央手術室メンバー、施設管理の担当者、事務職員などを集め、手術室を増設ができるのかの検討を始めました。

| 今後も、田村病院ならではの新しい取り組みに期待しています。

中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会シンポジウム

「地域でがんと向き合いましょう！」

中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会では、その活動の一つとして、地域住民の皆さまへの情報提供を目的としたシンポジウムを毎年開催しています。

第1部では、がん治療やがん診療拠点病院の取り組みについて、拠点病院のスタッフが情報提供させていただきます。

第2部では、元女子プロレスラーで、その後タレント・女優・歌手としてご活躍のマッハ文朱さんによる特別講演「エンジョイ健康ライフ」を予定しています。

事前の申し込みは不要ですので、皆さまお気軽にご来場ください（入場無料）。



【日時】2020年2月15日（土）午後2時～4時
【会場】八尾市文化会館プリズムホール（小ホール）
【定員】390名（無料、事前申し込み不要、先着順）
【主催】中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会

* シンポジウムの内容は変更となる場合がありますので、予めご了承ください。

結果、全身麻酔はできないものの、局所麻酔の手術であれば対応できる部屋を増設できそうなプランをまとめました。費用面・運用面の調整も必要であり、すぐに改修工事とはいきませんが、来年度に向けて検討を進めているところです。

| 最新の治療に対しても検討を始めていますね。

□ボット手術の導入や、がんゲノム医療へのかかわり方、ITを活用した地域医療連携の推進等についても、プロジェクトを編成し検討を進めているところです。

話は変わりますが、「働き方改革」への対応についても、ここ数年のうちに医療スタッフの勤務のあり方を大きく見直す必要があると考えていました。そのきっかけではないですが、今年度は「8月は原則、会議・委員会を開催しない」という方針を示し、夏季休暇を取得しやすくなるような環境整備を行いました。今はその効果の検証を行っているところです。

市立病院公開講座

「大切な耳・鼻・のどのお話」

市立病院では最新の診断と治療について広く市民の皆様に情報提供する機会として公開講座を開催しています。

今回は耳鼻咽喉科医師を講師とした、身近な耳・鼻・のどの病気にに関する講座を開催します。



会場前には看護師による「健康相談」コーナーと、薬剤師による「お薬相談」コーナーも設けていますので、皆さまぜひご参加ください。

【日時】2020年1月18日（土）午後2時～4時
※健康相談・お薬相談は午後1時より

【会場】市立病院 北館5階大会議室

【定員】100名（無料、事前予約が必要です）

【お申し込み・お問い合わせ】

市立病院 公開講座係 ☎ 072-922-0881